

平成30年度 上戸祭小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

基本目標：心身ともに健康で日本及び国際社会に貢献できる人間の基礎的な資質を養う。

＝ 心身ともに健康でたくましく、創造力と実践力に満ちた、心豊かな児童の育成 ＝

自分や他人を大切にする子ども

進んで学ぶ子ども

たくましく生きる子ども

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

＝ 合言葉：「学ぼう 遊ぼう 友だちと」 ＝

人間尊重の精神を基盤としたあらゆる教育活動を通して、学校教育目標に掲げた児童の育成を目指す。そして、児童が、社会の中で自分の能力を発揮し自己実現できるようになるために、「できなかったことができる、分からなかったことが分かる」ように、児童と教師と学校の power up を図る。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※地域学校園内で共通する方針は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- （1）児童の power up のために、個に応じた指導を充実させるとともに、保護者と連携して家庭学習の習慣化を図るとともに、社会性の育成を推進する。
- （2）児童の power up を支える教師の power up のために、校内研修を計画的・継続的に実施し、授業力の向上を図る。
- （3）教師の power up を支える学校の power up のために、地域や保護者への情報提供と地域の教育力を生かした取組の推進を図る。

〔星が丘地域学校園教育ビジョン〕

「未来を見つめ、学び続ける力の育成」

～星が丘地域学校園の学校文化を築くことを通して～

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※地域学校園内で共通する目標は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営】

- ・ 未来を見つめ、夢と希望に満ちた学校づくり

【学習指導】

- ・ 「読んで・わかって・伝える力」の育成
- ・ 「かみと学習マニフェスト」による学力向上
- ・ 意欲的に学び続ける児童の育成

【児童指導】

- あいさつと言葉遣いを重点とした、望ましい生活習慣と正しい判断力の育成
- ・ 互いのよさを認め合い、他人を思いやることのできる児童の育成

【健康（保健安全・食育）・体力】

- ・ 自らのめあてを明確にし、進んで体力の向上に取り組む児童の育成
- ・ 児童の健康な生活習慣の定着

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。） 評価の網掛け：本年度重点評価：マニフェスト

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組に関わる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 市共通アンケートの「私は、今の学校が好きです」 ⇒児童の肯定的回答 95%以上 市共通アンケートの「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」 ⇒保護者の肯定的回答 95%以上	・児童主体の魅力ある活動を推進しながら、一人一人のよさを認めることで「未来を見つめ夢と希望に満ちた学校づくり」と「心身ともに健康でたくましく、創造力と実践力に満ちた心豊かな児童の育成」に努めます。 (1)児童会活動や縦割り班活動、各委員会が企画・運営する集会・交流活動を充実させ、ロング昼休みを有効活用するなど、児童主体の魅力ある活動を推進します。 (2)日常的に児童の見取りを細かく行い、児童一人一人の話をよく聞き、声を掛け、よいところを認め、伸ばす指導に努めるとともに、職員間で学習情報システムを利用した情報共有を含め、より報交換を密にし、職員全体で児童を賞賛できる場を設定します。昨年度から始めたかみとオリンピックを通して、学級内で協力する機運を醸成し、互いの学級を認め合う機会として、さらに工夫改善し、学校生活の活性化につなげていきます。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答 92.1% 保護者の肯定的回答 94.3% ・ロング昼休みや朝会時を活用し、児童会や各委員会が企画・運営する集会・異学年交流活動を行ってきた。児童の創意工夫を生かし、児童主体の活動を推進してきた。 ・かみとオリンピック等を通して、学級経営の充実に努めるとともに、縦割り班活動を通して、児童が楽しいと感じる雰囲気づくりに努めた。 ・教育相談や日々の児童の見取りを細かく行い、職員会議等で児童に関する情報交換を行った。児童理解に努め、全職員による指導を行った。 ・学習情報システム等を利用し、教師間で情報を共有するとともに、良いところを認め伸ばす指導に努めた。 ・放課後の時間を活用し同学年で互いの学級の情報を共有した。 【次年度の方針】 ・児童の意欲的な取り組みを認め賞賛しながら、児童会、各委員会を中心に児童主体の魅力ある活動を推進していく。 ・かみとオリンピックや縦割り班活動を、さらに工夫改善し、児童一人一人が楽しいと思える学校づくりにつなげていく。 ・学習情報システム等を利用したの情報共有をさらに充実させ、児童のよさを見取り、認め、伸ばす積極的な児童指導を心がける。
			B	

A2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 市共通アンケートの「先生方は、大切なことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 市共通アンケートの「教職員は協力し、教えるべきことを熱心に指導している」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	・「学ぼう 遊ぼう 友達と」を合言葉として、児童が社会の中で自分の能力を発揮して、自己実現を目指すことができる教育を進めます。 (1) 授業の初めにねらい（身に付けたい力）を提示します。イメージを表現しながら学び合う活動を効果的に取り入れて、分かる授業を展開します。 (2) 教職員は、明るいあいさつを率先垂範し、人権感覚を磨き、丁寧な言葉遣いや誠実な対応を心掛けます。	B B	【達成状況】 児童の肯定的回答 96.6% 保護者の肯定的回答 90.7% ・授業の初めに本時のねらいを提示すること、ねらいを達成するための効果的な学習方略を研究すること、イメージを外化しながら学び合う活動を取り入れることなどを通して、「わかった」「できた」という実感をもつ児童が増えてきた。 ・「あいさつの響く学校」を実践するべく、教員や委員会の児童によるあいさつ運動を実施する等、明るいあいさつの率先垂範を心掛けた。 【次年度の方針】 ・来年度も、より効果的な学び合いの姿を模索し、積極的に取り入れていくと同時に、伝える力の育成や個に応じた指導の充実を図っていく。 ・今後も児童・保護者・地域の方々への明るいあいさつの率先垂範及び丁寧な対応を心掛けていく。
A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 市共通アンケートの「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒全体の肯定的回答 94%以上 ※全体の肯定的回答とは、児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答の平均を指す。	・あいさつと言葉づかいを重点とした、望ましい生活習慣と正しい判断力の育成に努めます。 (1) 「かみとよい子のやくそく」と「職員が共通理解しておきたい指導のめやす」を確認したり、児童の実態に応じて指導すべきポイントを絞り込み毎月の生活目標を設定し学期ごとに振り返りカードで振り返りをして、集団生活の中できまりを守っていこうとする態度の育成を図ります。 (2) 地域や地域学校園内の中学校等と連携して、児童が中心となって工夫したあいさつ運動を展開するとともに、登下校時や上戸タイム、朝の会や帰りの会など、さまざまな場で児童の規範意識を高める指導をしていきます。	A B	【達成状況】 全体の肯定的回答 90.6% 児童の肯定的回答 85.5% 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 94.9% 地域住民の肯定的回答 96.0% ・児童の肯定的回答が6.5%下がっている。これについては、きまりについての意識が薄れているものと考えられる。 ・地域住民の肯定的回答が21%も高くなっている。地域内での児童への指導が行き届いているものと考えられる。 【次年度の方針】 ・きまりやマナーへの規範意識を高めるために、「かみとよい子のやくそく」をさらに具現化し、全職員が共通して児童に指導し、月ごとに行動を振り返らせ規範意識を高めていく。 ・代表委員会、マナーアップ委員会を中心として児童が主体的にあいさつ運動を行っていけるよう工夫して取り組んでいくことで、あいさつの習慣化を図りたい。

A4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 市共通アンケートの「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 96%以上 市共通アンケートの「教職員は、児童生徒一人一人が理解できるように教材を工夫するなど、きめ細かな指導をしている」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	・情報を正確に読み取り、自分の考えを進んで表現して学び合う児童の育成を目指して授業改善に取り組むとともに、一人一人に応じたきめ細かな指導に努めます。 (1)漢字、計算、音読などを発達の段階に応じて取り入れ、基礎・基本の定着を図った上で、分かる授業のための教材研究・授業研究に努め、自分の思いや考えを豊かに表現させながら、学び合う授業を展開します。さらに、思考力・活用力を育成する朝の学習を情実させます。また、取り組み様子を学校便りや、学年便り等で、地域・保護者に発信します。 (2)国語・算数における習熟度別学習・チームティーチングの実施や、かがやきルームにおける個別指導の充実などにより、児童一人一人に応じた効果的できめ細かな指導に努めます。	【達成状況】 児童の肯定的回答 94.0% 教職員の肯定的回答 100.0% 保護者の肯定的回答 84.4% A ・家庭学習の充実や、朝のパワーアップタイム等を通して、児童の基礎・基本の定着を図った。 ・自分の考えを絵や図、文章で表現させたり、学び合いを通して自分の考えに自信をもったり深めたりする指導について研究を進め、授業に取り入れた結果、自分のイメージを表現し、課題解決に生かせる児童が増えてきた。 ・かがやきルーム指導員との調整を綿密に行い、個別指導の充実を図ってきた。 ・児童・保護者ともに、肯定的回答率が目標値を下回った。保護者の肯定的回答率が8割を超えたものの、前年度に比べて減少している。 B 【次年度の方針】 ・学年会の時間を確保し、学習の進度や使用する教材について共通理解を図ったり、教材の準備をしたりすることで、授業力向上を目指す。 ・基礎基本の定着を引き続き図っていく。 ・T・Tの様子を授業参観等で公開したり、「できた」、「わかった」といった児童のふりかえりの言葉や活動中の写真を学年便りに載せたりすることで、より一層の周知活動を行っていく。 ・朝の学習の時間に実施している、思考力・活用力を育成するためのパワーアップタイムをより一層充実していく。 ・各種調査の結果、基礎的事項は定着しているものの、非連続テキスト等も併せて情報を読み取ったり、要点を押さえて文章にまとめたり、学習した知識を活用して課題を解決したりすることに課題があることが明らかになった。学力向上プランにのっとり、各学年の実態に応じた指導を充実していく。
--	---	--

A5 教職員はいじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 市共通アンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 95%以上 市共通アンケートの「学校は、いじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる」 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	・「上戸祭小いじめ防止基本方針」について、全教職員で共通理解を図り、いじめの根絶に努めます。 (1)「いじめはどの児童にも起こりうる」との認識の下、未然防止の充実を図り、いじめの起こらない環境づくりに努めるとともに、いじめ防止の取組(いじめアンケート年4回、教育相談年2回、いじめゼロ集会の実施等)について各種たよりやホームページ等で、保護者に発信します。 (2)いじめを早期に発見できるよう、児童が相談しやすい環境を整備します。また、いじめが起きたときには、事実確認を正確かつ迅速、組織的に行い、被害児童を守り通し、加害児童に対しては「いじめは決して許されないこと」を毅然とした態度で指導します。	【達成状況】 児童の肯定的回答 96.8% 保護者の肯定的回答 87.9% ・いじめアンケートを年4回実施したり、教育相談を年2回実施したりして、いじめの未然防止と早期対応を行った。 ・昨年度に比べ、児童・保護者ともに肯定的回答が若干下がってしまったが、高い数値を示している。 【次年度の方針】 ・いじめアンケートの年4回実施、教育相談の年2回実施、携帯所持調査の継続、職員会議後の情報交換の実施などにより、いじめの未然防止と早期対応を行い、いじめゼロ集会を保護者に参観してもらうなど保護者や地域に発信していく。 ・いじめゼロ集会の実施やいじめゼロ標語の募集に工夫をし、道徳及び学級活動の時間などで思いやりの大切さを学ばせたり、児童や保護者に学校としてのいじめに対する取組を理解してもらったり、いじめ防止の強化に努める。
A6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている。 【数値指標】 市共通アンケートの「私の学校生活や様々な活動は充実している」 ⇒児童の肯定的回答 92%以上 市共通アンケートの「学校の日課、授業、行事などは、適切に実施されている」 ⇒教職員の肯定的回答 97%以上	・特色ある学校づくりや児童の実態に応じた教育課程を計画的に実施するとともに、PDCAサイクルを活用しながらよりよい教育課程となるよう努めます。 (1)授業を計画に沿って適切に実施し、「ザ チャレンジ」「修学旅行」「冒険活動教室」などの学校行事を子どもの主体性を大切にして実施します。 (2)学校行事や教育活動についての反省や、「社会に開かれた教育課程」の観点から以下のことを実施します。 ・地域・保護者の方々の教育力を生かした授業を展開する。 ・全市一斉土曜授業の日を「地域とともに学ぶ日」として位置づけ、地域・保護者の方々と交流したり学習成果を発表したりする学習活動を展開する。 ・お世話になった地域・保護者の皆様への感謝の気持ちを表す日として「上戸ありがとうの日」を実施する。	【達成状況】 児童の肯定的回答 91.5% 教職員の肯定的回答 100% ・計画に沿い授業を適切に実施してきた。学校行事も、児童の主体性を大切にして実施している。 ・学校行事を行うにあたっては、昨年度の反省を生かし、見直し・改善を行い、充実を図った。 ・教育課程改善プロジェクトチームを組み、今後の方針について検討を重ねてきた。行事の精選を行うとともに、日課の見直しなどを行った。 【次年度の方針】 ・今年度の反省をもとに、さらなる行事の精選や充実を図る。 ・「社会に開かれた教育課程」の観点から本校教育課程について調査研究及び実践を進めていく。 ・本年度の成果と課題を踏まえ「地域とともにある学校」を実現できるようカリキュラム・マネジメント行う。 具体的には、 ①地域・保護者の方々の教育力を生かした授業を展開する。 ②全市一斉土曜授業の日を「地域とともに学ぶ日」として継続し、地域・保護者の方々と交流したり学習成果を発表したりする学習活動を展開する。 ③お世話になった地域・保護者の皆様への感謝の気持ちを表す日として「上戸ありがとうの日」を実施する。

A7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。 【数値指標】 市共通アンケートの「学校は、学校便りや学校公開などで積極的に情報を発信・提供している」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 97%以上	・保護者、地域住民等の学校に対する理解をより一層深めるため、積極的な情報公開に努めます。 (1)学校自由参観や児童会の活動、各学年で行う出前授業、文化的行事など、様々な機会を捉えて保護者の参加を促し、学校を保護者や地域に公開します。音楽集会は「発表集会」とし、音楽だけではなく、学習したことを学年の実態に合わせて発表する場とします。 (2)学校だよりの地区回覧、学年だよりの各種たよりの配付、ホームページの適宜更新を行い、学校の取組や児童の姿を、分かりやすく紹介します。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答 96.3% 地域住民の肯定的回答 96.6% ・授業参観や自由参観、発表集会や学校行事など、保護者や地域住民への公開の場を適切に設定してきた。 ・パブリシティの活用、学校だより、学年だよりの発行など定期的な情報発信がなされていた。 ・ホームページの更新もこまめに行ってきた。 B 【次年度の方針】 ・発表集会は、学習したことを学年の実態に合わせて発表する場とし、いろいろな姿を見ていただく場としたい。 ・今後も学校公開の場を適切に設定し、各種便り等により情報発信をしていく。 ・ホームページの更新も定期的に行っていく。
---	--	--

A8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。 【数値指標】 市共通アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 95%以上	・保護者や地域の各種団体、企業等の協力を得て、児童が人と関わりながら体験的に学ぶ機会を充実させるなどして、教育活動を充実させます。 (1) ボランティアの方々との活動内容のあり方を再吟味した上で、地域コーディネーターと連携し、ボランティアごとに担当の教員を配置し丁寧な打ち合わせを行い、地域の人材の積極的な活動を実現します。 (2) 児童の安全を守るために、PTAや地域ボランティアと協力して、朝の登校指導や集団下校指導、「子ども110番の家」や通学路における危険箇所の確認、引き渡し訓練を実施します。	【達成状況】 <table><tr><td>全体の肯定的回答</td><td>96.5%</td></tr></table> 教職員の肯定的回答 100.0% 保護者の肯定的回答 96.4% 地域住民の肯定的回答 95.8% ・地域コーディネーターと連携し、地域ボランティアの方の温かい協力のもと、充実した教育活動・教育環境が実現している。 B ・PTAや地域ボランティアの協力により、児童は安全に登下校することができた。 ・本年度も見守り隊の方々にご参加いただき、安全・安心連絡会議を開いた。本校における安全・安心に関する取り組み状況を説明した。 【次年度の方針】 ・来年度も学校は、各ボランティアと学校をつなぐ教員を決めて、窓口となる教員を中心に地域の人材に積極的に協力していただく教育活動を推進する。 ・全市一斉土曜授業日を「地域とともに学ぶ日」として継続する。地域コーディネーターとの連携をさらに充実させ、授業において地域の方々の協力を得られるようにしていく。 ・引き続き地域や見守り隊の方々の協力をいただき、安全・安心連絡会議等において、危険箇所や児童の様子などの綿密な情報交換を行い、連携を図る。	全体の肯定的回答	96.5%
全体の肯定的回答	96.5%			
A9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 市共通アンケートの「学校は、清掃が行き届き、荷物や備品などが整理整頓され、学習しやすい環境である」 ⇒全体の肯定的回答 92%以上 ※全体の肯定的回答とは、児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答の平均を指す。	・教職員が率先して日々の清掃を行い、清掃用具の使い方や清掃の仕方についての指導に加えて、全校クリーン活動や清掃強化週間の実施、美化委員会による清掃目標の設定や清掃用具チェック、美化集会により、自分たちの学校を自分たちできれいにしようとする意識を高めます。	B 【達成状況】 <table><tr><td>全体の肯定的回答</td><td>91.4%</td></tr></table> 教職員の肯定的回答 96.6% 保護者の肯定的回答 95.5% 地域住民の肯定的回答 76.0% ・日々の清掃指導や美化委員会による集会活動、6年生による朝のボランティア清掃（中央階段）により、自分たちできれいにしようという意識をもっているが、進んで清掃活動ができるように指導を継続していく。 【次年度の方針】 ・教職員が率先して日々の清掃を行うことで児童への手本を示す。意識を示す。美化委員会による清掃目標の提示や清掃用具チェックの実施により校内美化意識を高める。	全体の肯定的回答	91.4%
全体の肯定的回答	91.4%			

	A10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取り組みを行っている。 【数値指標】 市共通アンケート『学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取り組みを行っている。』 ⇒全体の肯定的回答 90%以上	・地域学校園内の小学校及び中学校と連携を図り、学校園の教育ビジョンを立て、学習・生活面等で系統性や統一性を持った教育を展開します。 （１）地域学校園の実態から「身に付けたい力」を教科別に話し合い、9年間を3期に分けそれぞれの発達段階に応じた目標を立て系統的な授業展開により、望ましい児童の育成を図ります。 （２）「あいさつ運動」「乗り入れ授業」「中学校訪問」などを通して望ましい生活習慣を育成したり、互いの理解を深めたりします。	B 【達成状況】 <u>全体の肯定的回答</u> 90.6% ・地域学校園の実態から、教科ごとに9年間を見通し、発達段階に応じて設定した目標については、4校が集まって研修し見直しを図った。 【次年度の方針】 ・地域学校園ビジョンの見直しにより、小学校と中学校・学校と地域・学校と家庭といたつなぎの中で、子どもたちの学び続ける力を育成していくこととなる。具現化するための方策について、地域学校園内で検討し取り組んでいけるようにする。
--	--	---	---

B5 学校は地域との連携を図りながら、様々な体験活動や児童の居場所づくりを進めている。 【数値指標】 学校独自アンケートの「学校は地域協議会等との連携を図りながら、様々な体験活動や児童の居場所づくりを進めている」 ⇒教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 95%以上	・地域協議会や地域コーディネーターと連携を図り、地域の人材やボランティアの協力を得て、豊かな体験活動や居場所づくりを展開します。 (1)地域・家庭・学校が連携して、「上戸ありがとうの日」を実施しご協力いただいた方々への感謝の気持ちを表す場を設け、地域を愛する気持ちを育てます。 また、総合的な時間を中心に地域と連携した教育活動を積極的に取り入れます。 (2)宮っ子ステーション「かみタマ」「上戸クラブ」との連携を図り、児童の放課後の多様な体験活動、居場所づくりに努めます。	B B	【達成状況】 <table><tr><td>全体の肯定的回答</td><td>95.6%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答</td><td>100%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答</td><td>96.6%</td></tr><tr><td>地域住民の肯定的回答</td><td>86.2%</td></tr></table> ・地域コーディネーターやふれあい地域協議会の全面的な協力をいただき、よりよい学習環境・豊かな体験活動の充実が図られた。 ・多くの児童が「かみタマ」に参加し、放課後の幅広い体験・学習活動が充実している。 ・「上戸クラブ」は、学年の枠を超えた学習や遊びの場として、放課後の児童の居場所となっている。 【次年度の方針】 ・「地域とともに学ぶ日」「上戸ありがとうの日」等、地域と連携して行う教育活動のより充実した実施の方法について検討し工夫をしていく。 ・総合的な時間を中心に地域と連携した教育活動を積極的に取り入れていく。 ・「上戸クラブ」指導員の方々との連携を大切にし、情報共有をすることで、児童理解や児童のよりよい居場所づくりに努める。	全体の肯定的回答	95.6%	教職員の肯定的回答	100%	保護者の肯定的回答	96.6%	地域住民の肯定的回答	86.2%
全体の肯定的回答	95.6%										
教職員の肯定的回答	100%										
保護者の肯定的回答	96.6%										
地域住民の肯定的回答	86.2%										
A11 多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている。 【数値指標】 市共通アンケート「多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	・専門性に基づくチーム体制の構築を展開していきます。 (1) 学校図書館司書・ALT・かがやきルーム指導員・SCなどと授業計画を通して連携を図っていきます。	B	【達成状況】 <table><tr><td>教職員の肯定的回答</td><td>75.9%</td></tr></table> ・専門の方々と連携を図ることで、教育活動の充実を図ることができた。 ・専門の方々との連携は図れた。しかし、それを直接業務の縮減に結び付けるのは難しかった。 【次年度の方針】 ・専門の方々がいることで、業務が縮減されていることへの認識を深める。	教職員の肯定的回答	75.9%						
教職員の肯定的回答	75.9%										
A12 教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている 【数値指標】 市共通アンケート「教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	(2) 学校図書館司書・ALT・かがやきルーム指導員・SCなどと報告・連絡・相談をしていきます。	B	【達成状況】 <table><tr><td>教職員の肯定的回答</td><td>79.3%</td></tr></table> ・専門の方々と円滑にコミュニケーションが図れ、教育活動に活かすことができた。 【次年度の方針】 ・計画的に打合せの時間を確保し、教育が活動の充実を図っていく。	教職員の肯定的回答	79.3%						
教職員の肯定的回答	79.3%										

生 活	○A13 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 市共通アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒全体の肯定的回答 90%以上 ※全体の肯定的回答とは、児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答の平均を指す。	○1 マナーアップ委員会を中心にあいさつ運動やあいさつ金メダル運動や教師の朝の挨拶週間を実施していきます。また、見守り隊との対面式やありがたいの日を通して、地域の人に対する感謝の気持ちを育て、学校外での元気な挨拶の励行にも取り組んでいきます。 2 地域協議会を通して、地域の方たちにも学校の取組をご理解いただき、教職員も含めて気持ちのよいあいさつができる関係づくりに努めます。	B 【達成状況】 全体の肯定的回答 87.2% 教職員の肯定的回答 86.2% 保護者の肯定的回答 82.3% 地域住民の肯定的回答 84.4% 児童の肯定的回答 92.3% ・今年度独自の項目であるが、児童の9割以上の回答に対し、大人の回答が9割に達していない。特に朝のあいさつの習慣化に問題があると思われる。 【次年度の方針】 ・代表委員会・マナーアップ委員会を中心とした校内でのあいさつ運動の取り組みを強化したり、道徳・学級活動の時間などであいさつの大切さを学ばせたりすることによって、児童が自治的・積極的にあいさつ運動を企画していけるよう工夫して取り組んでいく。
	○A14 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 市共通アンケート「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている」 「児童は、大人に対して適切な言葉づかいをしている」 ⇒全体の肯定的回答 85%以上 ※全体の肯定的回答とは、児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答の平均を指す。	○1 時・場・相手に応じた適切な言葉遣いについて、道徳や学級活動等の時間を中心に粘り強く指導に努めるとともに、家庭や地域での指導の協力について働きかけていきます。 2 日常的に、相手を思いやる「ふわふわ言葉」を教室に掲示し意識化を図ったり、時と場に応じた言葉遣いができたりするような指導を行います。	B 【達成状況】 全体の肯定的回答 82.8% 教職員の肯定的回答 82.8% 保護者の肯定的回答 82.1% 地域住民の肯定的回答 64.5% 児童の肯定的回答 84.6% ・地域住民の肯定的回答が低い値を示している。学校内においても、思いやりに欠ける言葉遣いをする児童がおり、指導が必要である。 【次年度の方針】 ・相手を思いやる言葉遣いについて常時指導の徹底をしていくとともに、道徳や学級活動等において、上手なコミュニケーションのとり方を指導していく。 ・「ふわふわ言葉」についても、校内や教室内に掲示し、児童が常に意識できるよう、様々な場に応じて指導していく。

健康・体力	B6 児童は、友達と仲良く生活し、楽しい学校生活を送っている。 【数値指標】 学習と生活のアンケート 「友達といっしょに過ごすのは楽しいです。」 ⇒児童の肯定的回答率 90%以上 B6 学校独自のアンケート 「交流活動や交流給食で、同じ学年や他の学年の友達が増えた。」 ⇒児童の肯定的回答率 85%以上	1 清掃活動や交流給食・交流活動等の縦割り班の活動を充実させ、異学年の交流を図ります。なかよし班活動及び、清掃班編成の回数を学期ごとの2回とし、同じメンバーで活動できるようにします。 2 児童についての情報交換や教育相談、いじめアンケート（年間4回実施）、Q-U検査の結果の分析活用携帯電話の所持調査などにより、児童一人一人に目を向けた指導に努めます。 3 一人一人の児童が居がいをもって学校生活を送ることができるよう、教員が積極的に児童のよさを見つけ、ほめたり言葉かけを行ったりすることに努めるとともに、悩みをもつ児童が教師に気軽に話ができる体制づくりを行います。	B B B	【達成状況】 学校独自アンケート 児童の肯定的回答 79.0% ・同学年や異学年との交流給食や上戸オリンピックや各委員会のイベントなどで交流を図ることを通して、児童の自主性を育てることができたが、交友関係を広めるまでにはなかった。 ・なかよし班及び清掃班を同じメンバーにして活動したことで、児童同士のより良い関係づくりの契機とはなっていた。 【次年度の方針】 ・ランチルームを活用した交流給食などの縦割り班活動について、その目的を明確に周知した上で、同学年や異学年の交流を今後も継続していきたい。 ・ロング昼休み等の有効利用を通して、学級や学年内で遊びやイベント等を計画することにより、同学年内においても交友関係が広まるよう、工夫して取り組んでいく。 ・児童一人一人が居がい感をもって学校生活を送ることができるよう、教員が積極的に児童のよさを見つけ、ほめたり言葉かけを行ったりすることに努めるとともに、悩みを持つ児童が教師に気軽に話ができる体制づくりに心掛けていく。
	A15 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 市共通アンケート「児童は、休み時間や放課後などに進んで運動している」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	1 「元気っ子健康体力チェック」の結果を踏まえ、体育の授業において、柔軟性、ソフトボール投げの能力を高めるための補強運動や、校庭や体育館の固定遊具施設を有効に活用するための補強運動を行います。 2 水泳検定カード・持久走がんばりカード、縄跳びカードを活用し、児童がめあてをもって運動に取り組めるようにします。 3 竹馬、一輪車、縄跳びジャンピングボード等を有効に活用し、児童が楽しんで運動に取り組めるようにします。 4 「元気っ子健康体力チェック」の結果とスポーツ委員会主催のイベントとを関連させながら、友達と豊かに関わりながら進んで運動に取り組めるような機会を、休み時間に設定し、屋外遊びを奨励します。	B B C B	【達成状況】 児童の肯定的回答 89.8% ・昨年と比較し、児童の肯定的回答の割合が2.4%上昇した。 ・「元気っ子健康体力チェック」の結果から、苦手としている投力、走力を向上させるため、保健体育委員主催のイベントで様々な取り組みを行った。月ごとに全学年から参加者を募り、異なるイベントを行ったことから、運動の機会を多く設定できた。 ・各クラスに新たにサッカーボールを1個ずつ配置したところ、サッカーをして遊ぶ姿を多く見かけるようになった。 ・竹馬や一輪車の貸し出しについては、用具の劣化や児童の遊びの傾向から、あまり利用されなくなってきた。 【次年度の方針】 ・本年度の取り組みを継続するとともに、運動が苦手な児童も運動したくなるような企画を考案するなど、保健体育委員会主体のイベントをさらに充実させていきたい。 ・引き続き各種検定カード・がんばりカードを使用し、児童がめあてをもって意欲的に運動に取り組めるよう指導していく。

	A16 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 市共通アンケート「児童は、好き嫌がなく給食を食べている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 市共通アンケート「自分の子どもは、好き嫌がなく食事をしている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	○1 食育だよりを毎月発行したり、旬の食材を活用した季節感のある給食を実施したりして、食の大切さについて啓発を行います。 2 食物アレルギーのある児童の保護者との面談及び対応策の検討をして、個に応じた望ましい食習慣を育成します。 3 教科における「食に関する指導」や給食時の栄養指導等を実施するとともに、各種たよりで取組の様子を伝えていきます。	B 【達成状況】 <u>児童の肯定的回答 87.2%</u> <u>保護者の肯定的回答 78.7%</u> <u>教職員の肯定的回答 96.6%</u> ・昨年度に比べ、児童・保護者・教職員のすべてにおいて肯定的回答の割合が上昇した。これは、質問に「嫌いなものでも一口は食べている」が付け加えられたことも大きいと思われる。 ・2学期に入ってから、残量が減少している。児童の成長とともに、1学期からの担任による継続的な指導が成果を挙げていると考えられる。 【次年度の方針】 ・本年度同様、嫌いなものでも一口は食べる、よそわれた分は残さず食べる等、継続的に給食指導を行っていく。 ・児童の肯定的回答率を80%から85%に引き上げ、残さず食べる児童の増加と意識向上に努める。
--	--	---	--

B1 安全と健康管理に気をつけ、元気に生活している。 【数値指標】 学校独自アンケート「児童は、安全と健康に気をつけて生活している」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 95%以上	1 健康診断後に治療依頼の連絡をしたり、保健だよりを発行したりして、健康な生活習慣育成のための情報を提供します。また、給食後の歯磨きを全学年実施します。	A	【達成状況】 全体の肯定的回答 94.7% 教職員の肯定的回答 100.0% 保護者の肯定的回答 93.3% 児童の肯定的回答 95.7% ・肯定的回答はどれも高水準に達している。来年度は保護者からの肯定的回答のポイントが伸びよう努めてきたい。健康診断の結果、耳鼻科、視力、歯科検診の結果による受診率は約80%と高い。 ・健康アップウィークを年2回設けて児童の自己健康管理習慣づけを行った。
	2 肥満傾向児童に対して、養護教諭と学校栄養職員が栄養健康相談を継続して実施し、家庭と連携して健康な生活習慣の育成を図っていきます。	B	・自分の命は自分で守る児童を育てるために、道徳の時間はもちろん道徳教育において「生命の尊重」などを教え、さらに避難訓練の実施方法の工夫をはじめとし、校内に避難経路や避難方法の掲示をして、啓発を図った。
	3 自分の命を自分で守ろうとする意識を高めるため、学年に応じた安全指導を行い、避難訓練や、不審者対策、交通安全指導を定期的に行い自分の命は自分で守ろうとする意識が高められるよう、指導を工夫します。	B	【次年度の方針】 ・健康栄養相談において、対象児童は、生活習慣改善の知識が身についたので、実践できるように支援していきたい。 ・ほけんだよりは、月に2回発行し、1回に載せる情報を精選し、健康の保持増進について啓発していきたい。 ・給食後の歯みがき指導については、時間を合わせて一斉に実施するのは難しいが、共通した磨き方ができるように、歯みがき時に教室で使用する掲示物とCDを作成したい。 ・今後も自然災害等の避難訓練において、自分の命は自分で守ろうとする意識が高められるよう、実施方法の改善を計ったり、道徳教育等での指導を工夫したりする。

学 習	A17 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 市共通アンケートの「児童は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 92%以上	1 自分の考えや思いを図や言葉で表現したり、話し合ったりするなど、豊かに表現して学び合う児童を育成します。 2 発達の段階に応じて、「発表の仕方」や「話の聞き方」のルールを示し、互いの意見を伝え合い、児童同士で考えを深めていけるような場の設定を行い生活の場と教室をつなぐ活用型の課題を提示して意欲を高め、学びを深める授業を行います。	B 【達成状況】 全体の肯定的回答 92.7% { 教職員の肯定的回答 100.0% 保護者の肯定的回答 92.7% 児童の肯定的回答 91.9% ・多様な学習形態や表現ツールを用いた話し合い活動を通して、自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いて比較あるいは再考したりする力が育ってきている。 ・互いの良さを認め合い、安心して学習に取り組める学級集団が育成され、自信をもって意見を述べたり、話し合ったりできる環境が整ってきた。 ・生活に根差した課題を提示することで、学習を自分事としてとらえ、主体的に学ぼうとする児童が増えた。 【次年度の方針】 ・イメージや考えを伝える力の育成に集中して取り組み、「読んで、わかって、伝える力」の集大成を目指す。 ・生活と学習を結ぶ課題の工夫をより一層充実していく。
	A18 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 市共通アンケートの「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 市共通アンケートの「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」 ⇒教職員の肯定的回答 96%以上	1 話をきちんと聞く態度を身に付けさせるため、授業や行事などの集会活動において、日常的に聞き方の指導を行います。 2 児童が安心して自分の考えをもち発表し、友だちの考えや気持ちを尊重して聴いたりすることができるよう、活動の目的に応じて学習形態を工夫しながら、授業の中で話し合い活動を積極的に設定します。落ち着いて学習に取り組んでいる児童やめあてに向かって努力し続ける児童、聞き方や話し方が優れている児童をほめ、学びに向かう集団として望ましい状態を作ります。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 86.1% 教職員の肯定的回答 96.6% ・ほとんどの学級が、「話の聞き方」や「発表の仕方」等の学習上の決まりをしっかり守り、落ち着いて学習に取り組んでいるにも関わらず、児童、教職員ともに、目標値を下回った。特に児童の自己評価が低い。 ・朝会や集会で集まった時、正しい姿勢で集中して話を聞くことができる。 【次年度の方針】 ・学業指導の充実を継続して行う。 ・落ち着いて学習に取り組んでいる児童やめあてに向かって努力し続ける児童をほめ、学びに向かう集団として望ましい状態を提示する。 ・十分できている時はほめたたえる。

本校の特色・課題等	B4 学校は、学校栄養職員と調理員が連携して、安全でおいしい給食を供給し、食育の充実に取り組んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケートの「学校の給食は、安全でおいしい」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 95%以上	1 旬の食材を活用し、子どもの食の好みを考慮しつつ季節感のある安全・安心・おいしい給食を提供します。 2 食物アレルギーの対応については、保護者との面談を十分に行い、学校栄養職員、担任、養護教諭、調理員の連絡を密にし、事故のないよう努めます。	【達成状況】 全体の肯定的回答 95.6% 児童の肯定的回答 96.6% 教職員の肯定的回答 100.0% ・月1回の放射性物質食材検査を実施している。 ・季節感のある食材を可能な限り使用し、行事食や絵本とのコラボ給食の実施等、特色ある給食の提供に心がけた。 ・学校医による食物アレルギー講話を実施し、教職員の意識向上に努めることができた。 ・日々の食物アレルギー対応については、調理員と綿密な打ち合わせを行っている。さらに管理職各先生のダブルチェックにより、確実な対応に努めている。 【次年度の方針】 ・子どもの食の好みを考慮しながら、和食のよさを伝えたい。また、継続して安全・安心な給食づくりに努め、おいしい給食の提供をしていく。
	B3 読書活動の充実に取り組んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート「児童は、本をよく読んでいる」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 83%以上	1 朝の図書の貸し出し、読み聞かせボランティアの活用、読書週間での様々な企画等を通して、読書活動を推進します。 2 「全校一斉読書の日（仮称）」の実践等を通して、家庭読書の充実を図ります。 3 家庭の理解と協力を呼びかけながら、効果的な取組を継続し、さらに読書の有用性や楽しさを味わえるよう配慮して、読書指導の充実を図っていきます。	B

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

《学校運営面》

- ・学校行事、授業参観、発表集会等により学校公開が適切に実施された。また、学校だよりをはじめ各種たよりの発行、ホームページなどの活用で、教育活動や児童の様子を広く公開し情報を発信することで、学校に対する理解・協力を得ることができた。
- ・PTA、ふれあい地域協議会、各種ボランティアの方々の温かい協力で、充実した教育活動を行うことができています。
- ・2020年度からの新学習指導要領の完全実施に向け、更なる行事の精選や教育課程の工夫等、地域の方々のご協力を得ながら取り組んでいく必要がある。
- ・さらに、学級経営の充実を図ることで、活気があり、明るくいいきとした雰囲気の中で児童が学べるような学校づくりに努めていく必要がある。
- ・業務の軽減化を図る（コンピュータの活用等）などしながら、業務の縮減について取り組む必要がある。

《児童指導面》

- ・いじめに関する指導においては、徹底して取り組んでいる成果が表れていた。今後も学校と家庭、地域が連携し合って取り組んでいくようにしたい。
- ・あいさつやきまりの励行に関する意識が若干低いので、児童たちの手で工夫して取り組めるような活動を代表委員会や各委員会活動において進めていきたい。
- ・全校児童が仲良く活動するために、縦割り班での活動や交流給食等で多くの仲間ができるよう心掛けてきているが、広く浅い付き合いになってしまっているような気がする。ロング昼休み等を利用した学級・学年間でのふれあいにも目を向け、まずは学年での交流を充実化した上で、異年齢集団の関係の強化を図りたい。

《体力・健康面》

- 児童の視力低下は、星が丘地域学校園共通の健康課題なので、目に関する保健指導をこれからも実施していきたい。
- 投力の向上のために、星が丘地域学校園と連携し、協議を重ねながら発達の段階に応じたよりよい方法を検討していく。
- ・友達と豊かに関わりながら進んで運動に取り組めるような環境づくりを図るために、保健体育委員会が中心となって、各種のイベントを休み時間に開催し、外遊びを奨励していく。
- 地域学校園共通献立や絵本とのコラボ給食を実施し、また、JAうつのみやから提供された特別栽培米やとちおとめなど地元産食材を使った給食を実施したことにより、安全・安心・おいしい、さらに潤いのある給食となったので今後も継続していく。

《学習指導面》

- 「かみとの家庭学習」をさらに推進し、ベースとなる形式を整えて全学級で実施していく。また、家庭学習の基本は宿題であることを様々な機会に伝え、保護者や児童への周知を図る。
- ・コミュニケーション能力の育成のため、話し合い活動を意図的に取り入れる。また話し合い活動を促進するためのツールや学習形態を工夫し、検証して、結果を共有する。
- 思考力や判断力を高め、知識を活用して解決する課題を用意する。
- 児童の学びに向かう意欲を高めるため、課題の設定を工夫する。
- 児童の読書活動について各種たよりで保護者に周知する。また、ファミリー読書の実施方法を改善し、家庭と連携した読書活動を推進していくと同時に、読書を家庭学習として推奨する「全校一斉読書の日」を実施し、読書への意欲付けを図っていく。

6 学校関係者評価

《学校運営面》

- ・学校経営がうまくいっていることは、授業参観においても、集中して授業を受けている児童の姿と、熱心に教材研究をし、わかりやすい授業の展開をしている教師の姿からわかる。また、授業参観以外でも学校に足を運んでくれるとその様子は手取るようにわかる。
- ・学童（上戸クラブ）の方々と定期的に打ち合わせを行ったら、意思の疎通がより図れるのではないかな。
- ・小学校の学校運営の方針の中に「星が丘地域学校園」の教育ビジョンが組み込まれているために、周辺の学校とも共通なビジョンで学校経営ができる部分があるので良いと思った。

《生活指導面》

- ・挨拶については、学校内では先生方がよく声をかけてくださることもあり、保護者が来校しても児童は良く挨拶をする。大人が率先して挨拶をすればよいが、時代の流れから、学校外で知らない大人から児童に声をかけても知らない人から話しかけられたとして用心してしまって挨拶ができないことがある。これについては、地域の方の顔が児童に見えるようにしなくてはならない。

《体力・健康面》

・子どもたちの体力低下を防ぐために、保健体育委員会等で子どもたちが参加したくなるような体力向上を目指す様々なイベントがあって、それに参加するために運動をするなどの工夫がされているので良いと思った。

《学習面》

・「読んで・わかって・伝える力」の育成という目標に向かっていけるとわかる授業が多かった。最近自分の考えていることを上手に伝えられない子供が多いと感じているので今後も継続してほしい。

・読書をしているかどうかで、子どもと親のとらえ方が大きく違うのは、子どもが読書をしているときに親が見られない状況にあるからではないか。各家庭で、読書の時間を１０分でも２０分でも設けて、親子一緒に読書をすればよいのではないか。

・学校では、前年度まで実施していた「ファミリーレーブック」の効果があまりないということで、本年度は工夫改善した「ファミリー読書」を行うなど前向きな姿勢がみられてよい。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・今年度も、家庭と地域との連携協力による取り組みの充実に努めてきた。その結果、学校評価全体において、好意的、建設的なご意見ご提言をいただくことができた。これらを真摯に受け止め、次年度以降の学校運営改善に活かしていくとともに、学校教育活動に対する理解が深まるよう、折に触れ、その狙いや意図について、家庭地域に情報を発信することに努め実践していく。

・社会に開かれた教育課程の実現を目指して、行事の削減、縮小、合体を推進し、各学年の授業に、地域・保護者の方々の教育力を生かした授業を展開する。その際組織間の意識の差異が生じないように年度当初に組織間行事調整会議を行う。その後、１２月に行われる土曜授業で、交流発表を行い、年度末には貢献いただいた方々を表彰するというサイクルを実践していく。また、年度末に来年度への改善工夫をしていくために組織間行事調整会議を行う。

・学級環境づくりとしても、様々な意見を言いやすい学級「支持的風土の学級」（意見の対立はあっても、感情の対立はなく異質の他者の存在を知り、理解し、共生していく学級）を昨年に引き続き作っていく。また、教師や児童が「いじめの芽」を敏感に感じ取れるよう努める。いじめ未然防止として道徳、学級活動などの授業で人権教育・道徳教育の取り扱い（授業指導や、早期発見として、アンケートや教育相談、チャンス相談）を継続していく。いじめ早期対応を行うなど、その取り組みを、「いじめゼロ」集会を公開することなどにより保護者や地域に発信していく。また、見守りボランティアの皆様や地域の皆様、保護者からいじめに関する情報をいただけるよう啓発活動を行う。

・児童が、個人の能力に応じて進んで運動できるよう様々な機会の工夫・充実を図る。運動に親しむことのできる学校行事（縄跳び大会、かみとオリンピックなど）や、保健委員会で各種運動大会を設定し、さらに昼休みなど教師が、児童と過ごす時間を生み出し一緒に遊ぶなどを継続し、生涯を通じて運動に親しもうとする態度を養う。

・児童一人一人の学習の状況を形成的に評価し、適切な指導・支援を行う。授業の終末には学んだことを振り返り活動の充実をさせる。書く、聞く、話す活動を充実させ、考える習慣をつけさせる。家庭学習の習慣化を、自主学习ノートの提出とそれに対する日々の担任のアドバイスや励ましのコメントを継続することにより図る。コメントに関しては担任が児童の学習に対する実態を把握するためにも大変だが継続していく。また、児童の読書時間を増やす新方策である「ファミリー読書」の周知・啓発に努めるとともに、方法等の実行改善を行う。